

フィリピン訪問記

かつての栄光を再び 活気にあふれるフィリピンの今

お伝えしたいポイント

2017年9月4日

かつての栄光を再び 活気にあふれるフィリピンの今

- ・ かつての栄光を再び① ～成長ポテンシャルの高いフィリピンの消費市場～
- ・ かつての栄光を再び② ～ドゥテルテ政権下で強力に推進されるインフラ(社会基盤)投資～
- ・ かつての栄光を再び③ ～アジアの観光大国が視野に～
- ・ かつての栄光を再び④ ～フィリピンの経済基盤を支えるBPO*産業～

* BPO(ビジネス・プロセス・アウトソーシング):企業が自社の業務の一部を外部に委託すること。

～はじめに～

皆さんご存じでしたでしょうか？1960年代当初のフィリピンはアジアの優等生として知られていました。例えば、1960年当時の1人当たりGDP(国内総生産)は254米ドルで、日本(479米ドル)を下回る水準でしたが、中国(89米ドル)やタイ(109米ドル)、韓国(156米ドル)、マレーシア(235米ドル)を上回っていました。経済の発展度合いにおいて多くのアジア諸国に先行していたことがわかりいただけると思います。

残念なことに、その後は、政治の腐敗や汚職のまん延、クーデターなどによって不安定な政情が続いたことから、経済成長から取り残されました。優等生から劣等生への転落です。

しかし、フィリピンは再び劣等生から脱却しつつあります。特に、アキノ政権からの改革と政治の安定化が実を結んだことが大きな要因です。そして、アキノ路線を継承したドゥテルテ政権下において、さらなる改革が推進されています。過激な言動を繰り返すことで注目されるドゥテルテ大統領ですが、治安の改善や汚職の撲滅、規制緩和やインフラ整備によるビジネス環境の整備に全力で取り組む姿勢を示すなど、国内外からポジティブな評価を受ける面もあります。

経済面では、中間所得者層の増加・都市化の進展を背景とした消費の拡大に加えて、中国との経済関係緊密化を背景としたインフラへの海外からの直接投資の拡大や観光需要の拡大などが成長をけん引していくと考えられています。

今回の出張を通じて、かつての栄光を取り戻しつつある活気にあふれるフィリピンの現状を痛切に感じました。



上空からの写真。都市化が進展中。



ジープニー(乗り合いタクシー)の様子。

※写真は和大投資信託撮影。(出所)世界銀行

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

大和投資信託

Daiwa Asset Management

かつての栄光を再び①

～成長ポテンシャルの高いフィリピンの消費市場～

フィリピンは、名目GDPに占める民間最終消費支出の割合が7割程度(2016年)となっており、経済成長は消費にけん引されています。

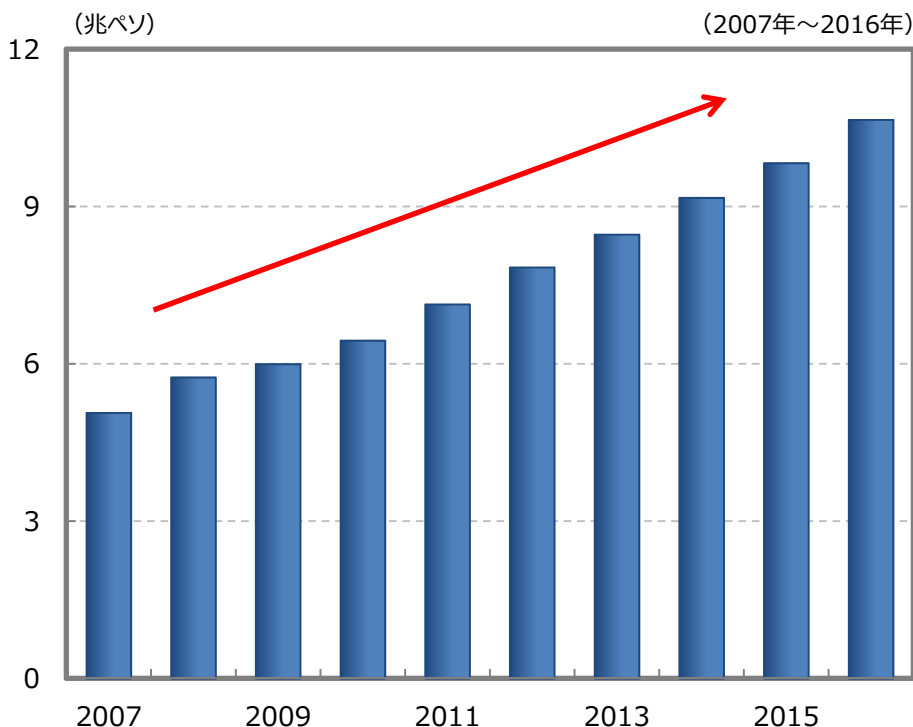
また、海外で働くフィリピン人からの送金も消費拡大に大きく貢献しています。海外労働者からの送金額は名目GDPの1割近くを占めており、フィリピン経済に対して大きなインパクトがあります。

今後についても、人口に占める若年層の多さ、国民所得の増加などから、消費市場としての成長ポテンシャルの高さが期待されています。



フィリピンの不動産開発大手「SMプライム・ホールディングス」が運営するショッピングモールの様子。

フィリピンの民間最終消費支出の推移



「ジョリビー・フード」のフライドチキンが大人気。フィリピンは歴史的な背景から米国の影響を強く受けており、英語が堪能。フライドチキンの人気も米国からの影響か！？



週末のデパートも活況。

※写真は和投資信託撮影。

(出所)フィリピン国家統計局

※1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

大和投資信託

Daiwa Asset Management

かつての栄光を再び②

～ドゥテルテ政権下で強力に推進されるインフラ投資～

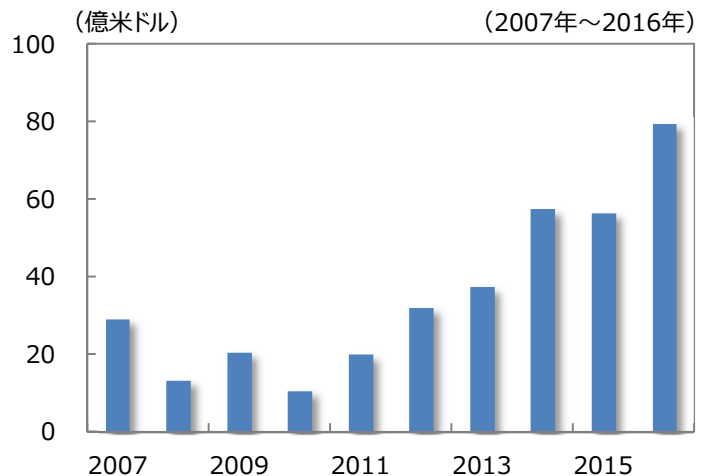
フィリピン経済は、消費市場拡大のポテンシャルが高い一方で、麻薬のまん延、工業化の遅れ、インフラ不足などの根深い問題を抱えています。特にインフラ不足は、海外からの直接投資の誘致を促す上での最大の問題となってきました。

また、大気汚染と交通渋滞が社会問題となっていることから、インフラ整備が求められています。

ドゥテルテ大統領は、インフラ整備に注力する姿勢を示しており、2022年までにインフラ支出を対GDP比7%程度にまで引き上げることを目標としています(2015年は対GDP比4%程度)。

インフラ整備の進展により、海外からの直接投資が今後増加していくことが期待されます。

海外からフィリピンへの純直接投資の推移



毎日の渋滞が当たり前となっているフィリピンのエドゥッサ通り。

ドゥテルテ大統領は、「主要道路の混雑に終止符を打つ」と話しており、今後は、鉄道や高速道路建設などのインフラ事業を強力に推進するとみられます。



フィリピン名物「ジープニー(乗合タクシー)」は現在も一般的な移動手段。派手な装飾に目を見張ります。料金は格安で、マニラ首都圏では8ペソ程度(16円程度)です。

ただし、排ガス規制のなかった時代の日本製中古エンジンが使用されており、大気汚染が懸念されています。ドゥテルテ大統領が推し進める地下鉄プロジェクト等によってこのような問題が解消に向かうことが期待されています。

※為替は2017年8月末値で円換算。

※写真は大和投資信託撮影。(出所)世界銀行、ブルームバーグ

※1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

かつての栄光を再び③ ～アジアの観光大国が視野に～

フィリピンでは、経済成長に伴う消費の成長とともに、レジャー・旅行などの観光産業も顕著な成長をみせています。

特に、中国人観光客の増加によりカジノ産業が発展しており、アジア域内ではマカオ、シンガポール、韓国に次ぐ4番目の位置づけとなっています。

マニラ国際空港とエンターテインメントシティをつなぐ「Metro Manila Skyway」の建設によって利便性を高め、集客力を高めるなどの取り組みも行われており、インフラ整備とも密接な関わりがあります。



マニラベイ地区にある「ソレア リゾート & カジノ」の様子。



ニノイ・アキノ国際空港 (NAIA) 付近の高速道路「NAIAエクスプレスウェイ」の様子。

エンターテインメントシティ(カジノを中心としたリゾート施設や経済特区)を通るよう建設されており、空港からのアクセスが劇的に改善しています。移動時間が60%短縮されたと言われています。

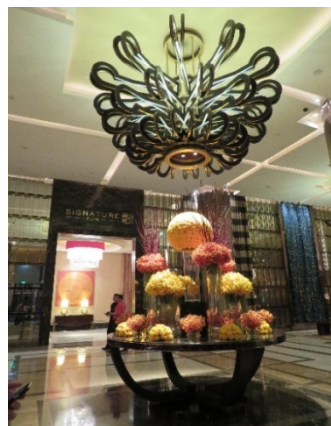
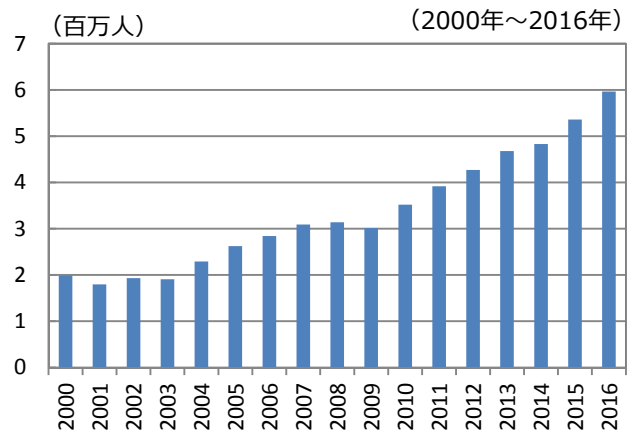


※写真は大和投資信託撮影。

(出所)世界銀行

※1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

フィリピンを訪れる外国人観光客数の推移



豪華な内装が特徴的。

かつての栄光を再び④ フィリピンの経済基盤を支えるBPO*産業

フィリピンは、高い英語力や安い人件費を背景に、コールセンターやソフトウェア開発業務の委託先として海外企業から高い注目を集めています。

IT関連のBPO*産業の規模はフィリピンの名目GDPの7%を超える水準となっており、フィリピンの経済成長を支える一大産業となっています。特に若年層の雇用の受け入れ先となっていると言われています。

* BPO (ビジネス・プロセス・アウトソーシング) : 企業が自社の業務の一部を外部に委託すること。



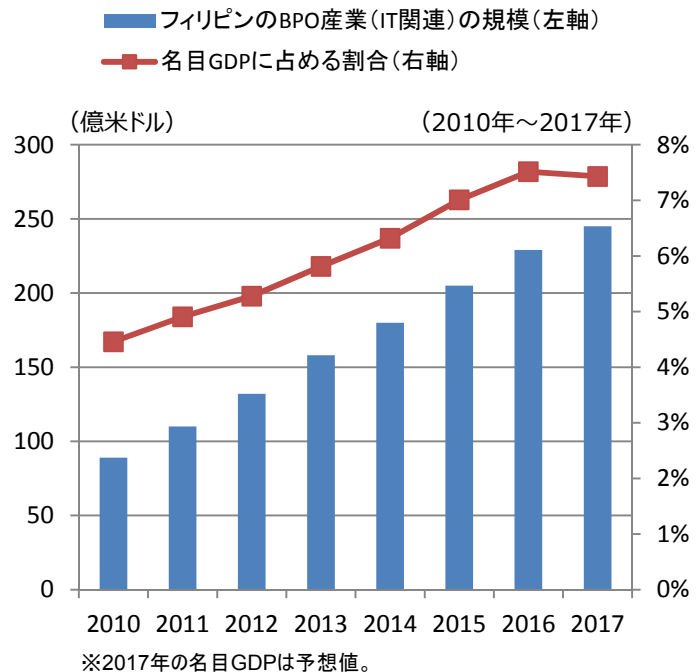
不動産大手「メガワールド」は、BPO*産業向けオフィス地区を開発しています。写真は現地の様子。



BPO*産業向けオフィス地区のコンビニは24時間営業しています。

夜間でも米国時間で働くBPO*産業向け従事者でいっぱいです。

フィリピンのBPO*産業（IT関連）の規模



BPO*産業向けオフィスの外観。OptumやAccentureなどの米国企業が入居しています。

※写真は和投資信託撮影。(出所)各種資料、IMF「World Economic Outlook Database, April 2017」

※1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。